広島大学附属三原学校園研究紀要　第６集　2016　pp. 181-186

国　語　科

交流を通して語彙力を育む中学校国語科の授業づくり

―「何にでも値段をつける古道具屋のおじさんの詩」の読解を通して―

石　川　嘉　一

１　はじめに

平成28年度中に次期学習指導要領・幼稚園教育要領の答申・告示が予定されている。その後，幼稚園は平成30年度，小学校は平成32年度，中学校は平成 33 年度に全面実施されると予想されている。

この次期学習指導要領の在り方について，平成26年11月に下村文科大臣は中央教育審議会へ諮問を行っているが，その重点の１番目として，「教育目標・内容と学習・指導方法，学習評価の在り方を一体として捉えた，新しい時代にふさわしい学習指導要領等の基本的な考え方」を挙げている。その中には，「育成すべき資質・能力を子供たちに確実に育む観点から，そのために必要な学習・指導方法や，学習の成果を検証し指導改善を図るための学習評価を充実させていく観点が必要」とある[1)]。

ここからは，各教科等の教育目標・内容を中心にした現行の指導要領から，「資質・能力」を重視したものへと見直しが行われることが読み取れる。また，この諮問を踏まえて行われた中央教育審議会教育課程企画特別部会における議事をまとめた「論点整理」には，「学習指導要領の全体構造を検討するに当たっては，教育課程全体でどのような資質・能力を育成していくのかという観点から，各教科等の在り方や，各教科等において育成する資質・能力を明確化し，この力はこの教科等においてこそ身に付くのだといった，各教科等を学ぶ本質的な意義を捉え直していくことが重要である」と述べられており[2)]，「資質・能力」の育成のためには，教科の本質を捉え直していかなければならないことが分かる。

本学校園では，キャリアプランニング能力（なりたい自分になる力），人間関係形成・社会形成能力（関係を構築する力），課題対応能力（達成へ向かう力）の３つを，学校教育活動全体を通して育成する資質・能力と捉えて研究を進めている。今年度からは，これらを「通教科的能力」として位置付け，保育・教科においても，保育・教科の本質に根ざした資質・能力との関連を明らかにして育成することを目指している。

本校国語科では，教科の本質を「思考・認識・伝達・創造の基盤を成す国語力」の育成と捉えた。そして，「通教科的能力」として，キャリアプランニング能力を「価値観・感性・情緒等の基盤を成す言葉を使いこなすことができる。（語彙力）」と「よりよく聞こう，話そう，読もう，書こうとすることができる。（言語生活の向上を志す意欲・態度）」の２つで整理した。同じく，人間関係形成・社会形成能力を，「言葉や文字などによって，意思や感情などを伝え合いコミュニケーションを成立させることができる。（コミュニケーション能力の基盤を成す国語の運用能力）」，課題対応能力を「問題を解決しようとする思考力を身に付け，様々な資料を基に将来の状況やあるべき姿を予測し，見通しをもって行動することができる。（論理的思考力・想像力の基盤を成す国語の運用能力）」と整理している[3)]。

本研究では，詩を読み，その言葉の選び方について個人及び小グループで分析することを通して，生徒の言語感覚を豊かにし，語彙力を育成するため，延いては「通教科的能力」を育成するための中学校国語科の授業のあり方を明らかにすること

を目的とする。

2　研究の方法

(1) 対象生徒

中学校１年生　40名（１クラス）

(2) 単元名

命の鎖「何にでも値段をつける古道具屋のおじさんの詩」寺山修司　学校図書　中学校国語１

(3) 教材について

本単元では，教材として詩を扱った。詩を辞典で引くと，「一定の韻律などを有し，美的感動を凝縮して表現したもの（大辞林 第三版）」とある。作者の心の動きを読み手に伝えるために，より良い言葉を選び，余計なものを削ぎ落として表現されたものが詩である。この「何にでも値段をつける古道具屋のおじさんの詩」は，挙げられた二つのものの価値付けを即座に行う古道具屋のおじさんとの会話を通して，ものの価値について考えることのできる教材である。詩を読み，その言葉の選び方について分析することで，生徒の言語感覚を豊かにし，語彙力を育成することができる教材であると考える。また，それを踏まえて，教科書と同じ型の詩を空欄補充の形で作ることにより，実際に身についた力を生かすこともできると考えた。

対象学級の生徒は，詩については４月に「はる（谷川俊太郎）」を学習した。その際には，詩の学習が好きだ，得意だと感じている生徒はあまり多くなかった。詩は理解することが難しいというとらえをしていることが原因であると考えられる。言語感覚という点については，学習の中で漢字を用いるのではなく，仮名を用いて書くことの効果について学習した。同じ内容を伝えるときも，それぞれの文字のもつイメージによって受ける印象が違うということを理解することができていた。

対象学級の生徒は，学習に対して集中して取り組むことができている。発表もできているが，やや限られた生徒に偏る傾向にある。本単元ではグループの中で，他者との交流を通して，詩の中ではどのような基準で価値を判断しているのかということについて，お互いの考えを尊重しながら考えさせた。その後，共通の型に基づいた表現を考えさせることなどにより，相手の考えた言葉を尊重しながら交流し，お互いの表現を磨くことができる集団を目指した。

指導に当たっては，単元を通してどのような活動を行うのかイメージを持たせ，見通しをもった学習にしていった。まず詩の表現技法について学び，今後の詩の読解にいかせるようにした。次に，この詩において作者が何を伝えたいのかということについて考えた後，いくつかのグループでの話し合いを通し，価値の見方はさまざまであることを実感させた。そして，詩の中のいくつかの言葉を空欄としたものを提示し，自分で設定したテーマについてより良く伝えられるような言葉を選ぶ活動を取り入れた。今後の生活の中でも，言葉を選んで使うという視点が持てるような学習を目指したものである。

(4) 目標

○　詩の内容や表現に関心をもち，工夫して読もうとしている。

○　詩の構成や展開，表現の特徴を分析的にとらえ，その工夫や効果について自分の考えをもっている。

○　詩に表れている価値の付け方についてとらえ，自分の価値観について考えている。

○　比喩や対句などの詩の表現技法について理解している。

(5) 授業構成（全３時間）

○　第１次　詩の基礎知識を学ぼう・・・１時間

○　第２次　おじさんの価値付けについて考えよう　・・・１時間

○　第３次　同じ形式で言葉を考えて詩を作ろう　・・・１時間

(6) 授業の実際

本単元では，まず分析をする上での視点を持つために，詩の基礎知識として表現技法について学習した。その後，詩に登場する「おじさん」がど

のような価値観で二つの物を比較して「高い」ということを判断しているかを，自分たちの価値観とも比較しながら考える活動を行った。最後に，詩と同じ形式で詩を作る活動で単元を締めくくった。

本研究では，特に「通教科的能力」を意識して学習を進めた第２次について詳しく述べる。

なお，資料として本研究の最後に本単元で扱った「何にでも値段をつける古道具屋のおじさんの詩」を付けている。

＜第１次　詩の基礎知識を学ぼう＞

まず次の詩を用いて，詩の表現技法について学んだ。

海の風景　　堀口大學

空の石盤に
鷗がＡＢＣを書く

海は灰色の牧場です
白波は綿羊の群れであらう

船が散歩する
煙草を吸ひながら

船が散歩する
口笛を吹きながら

この中で，直喩・隠喩（擬人法を含む）・対句法・倒置法などの技法について扱い，詩を分析する視点について学んだ。

＜第２次　おじさんの価値付けについて考えよう＞

本次では，詩に表れている価値観について考えることを通し，自分の価値観についても考えを深めることを目標とした。まず普段は物の価値観を何で判断しているかということに目を向けさせ，お金に換算して価値付けていることを意識させることで導入とした。その後，詩の中に出ている二つの物について，自分なりの価値観に基づいてどちらが高いかを理由も合わせて考えさせた。

次に，４人のグループで話し合いをさせ，意見をすりあわせてグループとしての意見をまとめさせた。また，メンバーを替えてもう一度話し合いをさせ，そこでもグループの意見をまとめさせた。ここでのねらいは，価値観は人それぞれさまざまであるということを実感させることであった。

それらを経てクラス全体での交流をした。一旦クラスでの結論を出した後，本来の詩ではどちらが高いと表現されているかを確認した。

以下にそれぞれどちらが高いと考えたか，その理由とともに生徒の声を挙げる。

〔例：ロバとピアノは　どっちが高い？〕

○　ロバ…物よりも命の方が大切だから。
　　ロバは生き物だしピアノとはちがって自分達の都合で新しく生産させたりできないから。
　　ピアノはこわれてもかえるがロバは人間と同じ世界で一つだけの命だから。

○　ピアノ…職人さんが手間をかけてつくっているから。
　　ピアノはとても高級そうできれいな音楽を奏でるから。
　　美しい音があって，その音でいろんな人をくぎづけにする。

〔例：春と愛とは　どっちが高い？〕

○　春…春は一年に一回しかこないけど愛は365日いつでもあるから。
　　みんなのものだから。
　　春はみんなのもので，愛は自分（個人個人）のことだから。

○　愛…季節よりも，人の感情の方が大切だと思うから。
　　春は一年までばくるけど愛はいつくるかわからないから。
　　人それぞれちがう物だから。

また，授業後の振り返りの記述には次のようなものがあった。

〔生徒の振り返りより〕
・他の班の人とも共有して考えのはばがとても広がりました。
・今日は自分自身はこっちの方が高いと思っていても班などで交流してみると自分では気づけなかったことに気づくことができた。
・相手と自分との価値観が全くちがってびっくりした。でも，話し合っていると納得できたりしてとてもおもしろかった。
・色々な考え方があるんだなと思い，勉強になりました。私の考え方よりもいい考え方がたくさんあって，そんなふうに考えられるようになりたいです。
・日ごろから価値観を考えてすごすことが大切かなぁと思うことができる授業でした。

図１　授業風景（班交流の場面）

＜第３次　同じ形式で言葉を考えて詩を作ろう＞
詩と同じように，二つの物をならべてどちらが高いか，またその理由は何かを考え，創作させた。

３　結果と考察

本単元の評価は，前に挙げた生徒の振り返りにおける記述と，生徒アンケートによって行った。なお，アンケートは５件法で作成している。

(1)　語彙力，言語生活の向上を志す意欲・態度（キャリアプランニング能力と関連）について

表１　この力の肯定的回答の変容
（単位：%，差：単元実施後－単元実施前）

質問紙項目	実施前	実施後	差
生活の中で，自分や身の回りの言葉の使い方を意識している。	７３	７９	６
国語の学習で，新たな発見をしたり疑問をもったりしている。	７１	７１	０

「言葉の使い方」の意味するところとして，「敬語」をイメージしている生徒が多い。「先生や先輩には敬語を使うようにしている」などといった記述が見られた。相手意識を持って言葉の選択のできる人になってほしいと考えている。そのように意識して生活をしている点は今後も続けさせたい。

しかし，「語彙力」という点においては，「作文で話し言葉と書き言葉を意識して書くようにしている」などといったように敬語以外の「語彙」について言及している生徒が少なかったので，さらに本単元のように言葉について考えさせるような活動を行い，力を付けていきたい。

(2)　コミュニケーション能力の基盤を成す国語の運用能力（人間関係形成・社会形成能力と関連）について

表２　この力の肯定的回答の変容
（単位：%，差：単元実施後－単元実施前）

質問紙項目	実施前	実施後	差
友達の考えをしっかり受け止める（聴く）ことができている。	９４	９７	３
発表や話し合いをするよさを感じることがある。	８４	８９	５

これらについては，もともと数値が高かったが，さらに向上していることが分かる。自由記述からも「友達の考えを受け止めて自分も考えられる」「他の考えも見つかってくる」「いろんな人の意見が聞けて参考になる」「他の考えはあるのかなとさらに考えたいという気もちになる」など交流を通してコミュニケーションを成立させ，そのことがさらに深く考えるという，教科学力の向上にも結びついている様子がうかがえる。今後はより分かりやすいコミュニケーションのために，話の進め方や，組み立て方などスキル的な面も考えていきたい。

(3) 論理的思考力・想像力の基盤を成す国語の運用能力（課題対応能力と関連）について

表３　この力の肯定的回答の変容
（単位：%，差：単元実施後－単元実施前）

質問紙項目	実施前	実施後	差
疑問や目的意識を持ちながら，国語の学習に取り組んでいる。	８４	８４	０
課題解決に向けて，見通しを持って学習を進めることができている。	６８	７１	３

おおむね肯定的な評価をしていると捉えられる。毎時間，目標を黒板に明記して学習を行っていることなどが効果的に働いていると考えられる。

課題としては，「見通しを持って学習を進める」ことに対して否定的な回答をした生徒も２名いるなど，まだ学習過程が明確になっていないことが挙げられる。見通しを持ちやすくするような単元構成を工夫していきたい。

４　終わりに

語彙力，言語生活の向上を志す意欲・態度については，詩を読んでどういった観点で価値付けをしているのかを考えることができていた。それぞれの理由付けもできていた。しかし，授業の振り返りの記述とアンケートの回答が結びついていないところもあったので，「語彙力」とは何かということについて生徒との共通理解を図る必要がある。

コミュニケーション能力の基盤を成す国語の運用能力の育成については，詩で表現されている内容や自分の考えた表現について，相手の考えも尊重しながら交流することができていた。そのことにより，考えを深めることもできた。

論理的思考力・想像力の基盤を成す国語の運用能力の育成については，本稿では扱うことが出来なかったが，読み手に伝わりやすい詩の表現を作るためにはどのようにしたらよいか，単元の流れも踏まえて考えることができていた。

全体を振り返っての課題として，国語科としてのねらいがやや明確でなかったことが挙げられる。詩の細かい部分にこだわり，二つの物を比較して価値観について考えることはできていたが，作者である寺山修司がこの作品で読者に考えさせたかったものは何なのか，といったように作品の全体の構造をどう扱うかということに課題が残った。「教科の本質に根ざした資質・能力」という部分にこれからもこだわっていきたい。

５　資料（扱った詩の全文）

何にでも値段をつける
古道具屋のおじさんの詩
寺山修司

ぼくは訊ねる
――ロバとピアノは
　どっちが高い？

おじさんは答える
――ピアノだよ

じゃあピアノと詩集は
　どっちが高い？

ものにもよるけど
　詩集が高いことだってあるさ

じゃあ　詩集と春とは
　どっちが高い？

春だよ　もちろん
季節は　超高級品だから

じゃあ　春と愛とは
　どっちが高い？

愛だろう
めったに　売りには出ないけど

そこでぼくは　最後に訊ねる
ぼくの一ばん知りたい質問

――愛となみだは
　どっちが高い？

＜引用・参考文献等＞

1)　中央教育審議会：「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」，2014，
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1353440.htm.

2)　中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会：「論点整理」，2015，
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf.

3)　広島大学附属三原学校園：「研究の概要」及び「国語科研究構想」，平成27年度広島大学附属三原学校園第十八回幼小中一貫教育研究会資料，2015.